令和８年度

大阪大学
総合型選抜・学校推薦型選抜
解答例又は出題の意図

小論文（L）

本年度の出題では、問題文に記された考えを正確に理解したうえで、それを踏まえて自分自身の経験、また受験者から見た現代社会のありようを自らの言葉で明快に説明することができるかを問うことを目指した。問題文は、「ふれる」という触覚的な言葉を字義的にも比喩的にも用いながら、ふれることとふれられることの非対称性と見えないひとにとってそれが特におおごとになるさまを具体的な証言をもとに語っている。問一では、本文中の言葉の意味を問うことで、受験者がこうした問題文の趣旨をどの程度把握しているかを見ようとした。問二では、それを踏まえて自らの経験を自分の言葉で語り、本文中の議論と自分自身とをいかに結びつけるかを問うた。問三では、問題文のテーマと単なる自分個人の経験を超えて、広く社会全体の問題へと思考を広げ、それについて論理的に語る力を見ようとした。